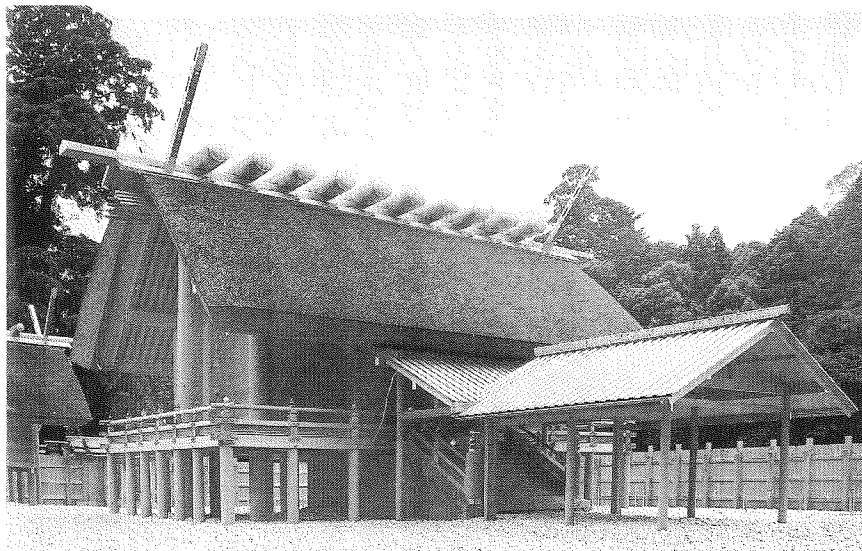


奉祝 第62回神宮式年遷宮



— 伊勢神宮内宮(皇大神宮)御正殿 —
阿蘇神社 <http://asojinja.jp>

社報 あそみや

平成25年11月1日

第 57 号

発行所

阿蘇神社社務所

多良見町化屋862

☎ 0957-43-5235

常 若

阿蘇神社

宮司 大島 大明

「とこわか」と読み、辞書には、いつまでも若々しいこと。また、そのさま。と説明されています。

全国の神社の本宗と仰がれる伊勢神宮(正式には単に「神宮」と称します)では、二十年ごとに御神殿を立て替え神様をお遷しする「式年遷宮」という祭事が行われます。去る十月二日に内宮、五日には外宮の「遷御の儀」が「浄 暗」という神聖な夜に斎行されました。新しい御神殿に神様をお遷しして永遠

の若々しさを保ち、国家と国民の幸福を祈るのが「遷宮」の本義とされています。

持統天皇の御代(六九〇年)に第一回の式年遷宮が行われ、爾來戦乱等で中断したものの、今回は第六十二回目の式年遷宮となります。阿蘇神社総代会では、前例に倣い神宮参拝旅行を企画いたしました。末頁に記載のとおり参加者を募集しています。お誘い合わせご参加下さい。

敬 神 生 活 の 綱 領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培い、大平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向ふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

- 一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、
- 一、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと
- 一、世のため人のために奉仕し、
- 一、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 一、大御心をいただきてむつび和らぎ、
- 一、国の降昌と世界の共存共栄とを祈ること

阿蘇神社例祭を齋行!!

去る十月十五日に阿蘇神社の例祭が齋行されました。

阿蘇神社は天文三年(一五三四)当時喜々津の領主であった西郷石見守が熊本県一の宮の阿蘇神社より御分霊をいただき、喜々津の総鎮守として神社を建立して祀った日とされ、因みに今年には御鎮座四七九年になります。

定刻宮司以下祭員が参進。先ず御本殿の御扉を開き、神饌とともに神社本庁よりの幣帛料、長崎県神社庁及び参列者よりの初穂料が神前に供えられました。

御鎮座の往時を偲ぶとともに、神恩感謝と更なる御加護を祈念する祝詞を宮司が奏上、引き続き巫女が笛太鼓に合わせ、神楽舞を奉納、次いで宮司以下参列者の代表者が玉串奉奠を行い、平成二十五年の例祭を終了しました。その後社務所へ移動して直会を催

し例祭を祝いました。

例祭に際し左記の通りご献納を賜りました。ご芳名を記しお礼を申し上げます。《順不同・敬称略》

◇幣帛料 神社本庁

◇初穂料 長崎県神社庁、慈恵病院・松本卓郎、松本淳、多良見町漁協組合長、木下和幸、(有)森商会、森誠司、JA長崎西彼喜々津支店長、森浩幸、峰一孝、八江利春、白石幸男、嶋田彌八郎、草野榮、中村眞夫、持永隆行、山田豊明、松森恒一、松尾勝喜、大塚尚悟、岩本勲、北島守幸、松尾清人、吉野徹、前田信太郎、宮嶋博、大

久保治賢、小川虎彦、前川功

◇献酒 多良見郵便局長・原口博道、十八銀行多良見町支店長・矢野祐介、親和銀行多良見支店長・山下博、たちばな信用金庫多良見支店長・水口潤二、

以上



◆神宮式年遷宮のこと◆

式年遷宮が終了した後の旧社殿はどうなるのかとの質問を受けることが多くなりました。

旧社殿は解体された後、御社殿の建造を予定されている全国の神社に、御用材の一部として払い下げられます。特に災害により立て替えを余儀なくされた神社を優先に払い下げが行われています。また、神宮内でも必要に応じて再利用されることになっています。

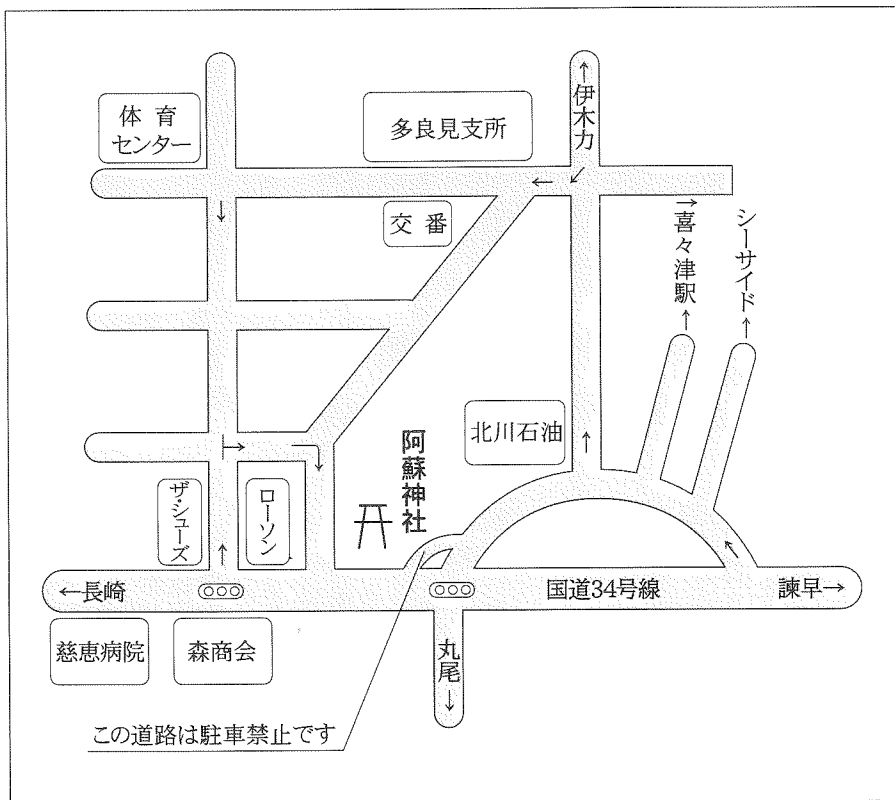
一例をあげれば、内宮・外宮の正殿の各棟持柱は宇治橋の鳥居として再利用されています。

内宮の棟持柱は宇治橋の内側、外宮の棟持柱は宇治橋の外側の鳥居として次の遷宮までの二十年間活用されます。さらに内宮の棟持柱は東海道の関の追分(鈴鹿市)へ、外宮の棟持柱は桑名の七里の渡し(桑名市)に移築され、それぞれ遙拝鳥居として二十年、合計で六十年に亘って使用されます。

御用材の切り出す前に安全を祈願する祭(山口祭)から始まった式年遷宮の一連の諸行事は、八年の歳月をかけ「遷御」の年を迎えることとなりました。

七五三詣は阿蘇神社へ!!

男女三才を『髪置』、男児の五才を『袴着』、女児七才を『帯解』
または『紐解』と称し、いずれも子供の健やかな成長を願う行事です。
ご家族お揃いでご参拝下さい。



平成二十五年の七五三祝 数え年

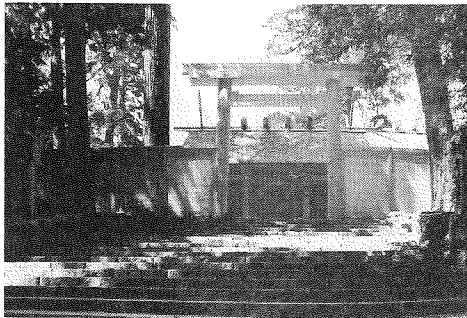
男女	三歳	平成二十三年生
男	五歳	平成二十一年生
女	七歳	平成十九年生

◆ 十一月九日(土曜)、十日(日曜)、十五日(金曜)、十七日(日曜)の四日間は七五三を中心を受け付けます。
 ☆受付時間 午前十時〜午後四時
 これ以外の日時にご参拝予定の方は、出張祭典などで留守をすることもございますので、お手数ながら事前に予約をお願いします。
 ☆駐車場に限りがございます。

◆編集後記◆

川嶋擁子(ヨーコ・カワシマ・ワトキンス)著の「竹林はるか遠く」を読んだ▼先の大戦の終戦直後、家族と共に満州から祖国日本への決死の逃避行を綴った自伝で、昭和六十年に出版された▼米国では学校で教材として使用されるなど、高い評価を受けている書籍であり、当時の様子を知るためにも一読していただきたいものです▼朝夕の冷え込みも日毎に厳しくなってきました。
 ご自愛専一にお過ごし下さい。

奉祝 第62回神宮式年遷宮 伊勢神宮参拝旅行のご案内



全国の神社の本宗と仰がれる伊勢神宮では、二十年ごとに御社殿を建て替え、神様をお遷しする「遷御の儀」が斎行されました。阿蘇神社総代会では前回の例にならない、参拝旅行を計画いたしました。

二十年に一度の機会です。お誘い合わせご参加下さい。

◆ 行 程 表 ※交通機関の関係で行程が変更になる場合がございます。

	月 日	行 程	宿泊ホテル
1	3/26 (水)	西川内 6:30頃 —— 市 布 6:45 —— 阿蘇神社 7:00 —— 長崎空港 9:00頃 JAL2372 伊丹空港 10:00頃 —— 檀原神宮(自由散策) —— 興玉神社 —— 鳥羽(泊) 18:00頃	(鳥羽) 鳥羽シーサイドホテル Tel 0599(25)5151
2	3/27 (木)	ホテル —— 伊勢神宮(外宮・内宮/おかげ横丁) —— 9:00頃 外宮で旧正殿を見学し、内宮では神楽を拝観します。 —— おごと温泉(泊) 17:00頃	(おごと温泉) 湯元館 Tel 077(579)1111
3	3/28 (金)	ホテル —— 二条城 —— 八坂神社 —— 9:00頃 —— 清水寺 —— 伊丹空港 17:00頃 JAL2377 長崎空港 18:00頃 —— 阿蘇神社 —— 市 布 —— 西川内 19:00頃	

◎ 期 日 平成26年3月26日(水)~28日(金)

◎ 募集人員 40名(定員になり次第締め切ります)

◎ 旅行代金 89,000円

※ ご夫婦で参加され、二人で一部屋をご利用される場合は一人12,500円の追加料金となります。

お問い合わせ・申込みは

阿蘇神社社務所 電話 0957-43-5235
FAX 0957-43-2183